

ワーキンググループを設定する行政側の視点からの要因整理

【表5】

1 公募方式に関すること

市民公募 = 参加者自身が市民そのものであることが、実際の地域課題への主体的関心とその後の実際の活動への発展につながっている。

個人参加 = 個人参加を原則としたことが、特に、団体代表や民生委員などの職等に拘束されない意見表出の基盤を作ったと推察されること。

公募の際の活動経験・知識不問の明確な提示

= 地域活動への参加経験や意識などの違った多様な市民層の参加につながったことが推定される他、情報へのアクセス性の障害除去の必要性などへの関心にもつながっている。

2 実施方式に関すること

ワーキンググループ方式

= 複数回に渡り、継続的に議論を深めながら、実際の自主的に活動を進めていく方式は、課題の提示に止まらず背景・状況への関心を生み、第三者的批判でなく当事者としての意識を生んだ。このことは、融和的建設的議論を醸成した。

グルーピングの工夫

= メンバーの多様性を生み、議論・状況分析に深みを生じさせ、さらに、既存概念や既存知識に拘らない探求性に結びついた。

拘束性の低い組織

= 活動の継続を模索する過程で、主体性が損なわれたときの影響への高い関心が払われた

自主運営 = 実際に自主的に運営を行うことが、活動の安定性（組織、活動の場、資金など）への関心となり、また、組織維持の負担に理解が及ぶことで、単純な既存組織への批判などから肯定的理解と発展的提案の姿勢に結びついている。

小学校区程度の小地域の設定

= 歩きや自転車での移動が可能な範囲であることは、主体性の維持にも大きくつながり、また、既存の組織の顔が見えることは、そうした活動・組織との融和的な関係の構築の模索につながっている。活動においては、既存のインフォーマルなネットワークが存分に活用された。

3 行政側の姿勢に関すること

主体性の最大限の尊重

= 役割分担など基本的な運営の仕方や、活動の内容など、最大限、主体性を尊重したことは、単に主体的意識を醸成するばかりでなく、主体性が損なわれるとモチベーションが低下することへの関心から地域活動への参加呼びかけの難しさなどへの課題意識が生まれた。また、意思決定に際しては、極力多数決を避け、参加者の合意を模索しようとする基盤につながっている。

課題を提示しないこと

= これまでの福祉的視点にとらわれず生活者の視点からの地域課題の発見に結びついたほか、実際に自ら課題を調査することで、状況の背景への関心や洞察の姿勢に結びついている。

成果を求めないスタンス

= ノルマを感じないことからの高い発言の自由度は、斬新な視点への誘因となっている。

4 活動条件に関すること

援助されることへの精神的負担の提示

= ニーズの潜在化への高い関心と、これを防止するためのアウトリーチな働きかけ模索

地域への活動報告目標の設定

= 地域市民への活動報告を意識する過程で、市民の価値観の多様性を主体的に認識

自主的広報活動

= 実際に地域市民に対し、自ら広報活動を行う過程で、市民の関心の多様性に気づき、広報伝達の困難性を理解することで様々な地域活動相互の融合の可能性の模索へと発展。

簡易な調査手法の提示

= 市民自ら地域の課題を知ろうとする姿勢の支えとなり、また、状況・背景への関心・洞察を誘発するほか、情報の不確かさへの理解は、情報伝達の困難性などへの関心にもつながっている。

5 活動過程の支援に関すること

第三者によるオーソライズ

= 活動のメルクマールを得ることで、方向を確認することと、答が見えないことなどへの不安を解消し主体的活動の維持継続につながっている。

事務的部分への協力

= 活動初期の不安定な時期への支援により主体的な活動の維持継続につながっている。

市民や専門家等の評価のフィードバック

= 自らの活動の位置を再確認することで、自信の無さや主体的であることへの不安を払拭し、主体的で効果的な活動へと結びついている。

発言のし易さへの配慮（少人数化・場の雰囲気への配慮）

= ちょっとした配慮が、全員の発言の機会をつくり、その発言の経験は、自ら情報を収集したり地域活動の展開を考える上での場の重要性への認識につながっている。

発展的展開の可能性を誘導する第三者

= アンケート調査などには表れにくい広汎な情報が交換される誘因。

一定期間の活動の継続設定

議論の過程の蓄積

= 状況・背景の分析が深まるとともに、それらの課題が環構造をなし重層的にあるいは網の目のような有機的な関わりのあることの認識へとつながっている。

議論展開の脆弱さへの補足

= 記録などから部分的に活動や討議の

補足を行うことで、議論の混乱やテーマの見失いを防止

議論の展開の分析結果のフィードバック

= 部分部分で議論の展開を分析しその結果をフィードバックすることで、活動の方向性が再確認され、自立性が確保された。